

心理学研究法Ⅱ			単位数	履修方法	配当年次
			2	SR	2年以上
科目コード	FB3509	担当教員	木村 中村 平川	進・白井 修・佐藤 昌宏 ほか	秀明 俊人

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」、として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。

「心理学研究法Ⅱ」のスクーリング（2単位6コマ）では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。具体的には、1日めの最初の2コマで検査法全般に関する講義を行い、3コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日めには、 χ^2 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。

講義内容の概要は以下のとおりです。

(1) 検査法について（担当 木村 進ほか）

- ①心理検査法とは 検査法実施上の留意点
- ②知能検査（ウエクスラー系・ビネー系）の概要と留意点
- ③発達検査の概要と留意点
- ④性格検査（Y-G性格検査など質問紙法、ロールシャッハテスト・TATなど投影〔映〕法、作業検査法）の概要と留意点

(2) 心理統計とデータ分析について（担当 白井秀明ほか）

- ①心理統計学の基礎についての講義（仮説演繹法、実験的研究と相関的研究、心理統計がなぜ必要か、サンプリングと剰余変数の統制、統計的仮説検定の流れなど）
- ②統計処理（有意差検定、相関分析等）についての講義（解説）と演習

■到達目標

- 1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。
- 2) 手順ののっとり統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。
- 3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。

■教科書 ————— 「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」と共通

- 1) 高野陽太郎・岡 隆 (編) 『心理学研究法——心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ, 2004年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド (第2版)』東北福祉大学

(最近の教科書変更時期) 2015年4月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄をご覧ください。心理学研究法一般については『福祉心理学科スタディ・ガイド』も参考にしてください。

■スクーリング受講条件 —————

※この科目のスクーリング受講は必須です。

- (1) スクーリング申込締切日までに、福祉心理学科専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群のなかから7科目分のレポート(4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート)を提出していること(実験科目を含めて可、特講科目などS科目は含まれない)。
- (2) スクーリング事前学習をすませてください。スクーリング受講申込者には、あらかじめ「心理統計学についての基礎知識」のプリントを送る予定にしています。プリントに書かれている内容は、スクーリング内で説明しますが、そのプリントの内容が頭に入っていると、理解が的確にでき、スムーズに講義や演習に取り組めると期待されます。できるだけきちんと読んで理解してくるよう努力してください。
- (3) レポート課題1単位めの課題1を行い、スクーリング初日開始時間に提出すること。
※課題の内容については、「レポート課題」「アドバイス」を参照してください。
- (4) スクーリング講義内容については『試験・スクーリング 情報ブック』5部でご案内します。

■在宅学習9のポイント —————

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント① (教科書2) Ⅲ章10)	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 キーワード：仮説, 独立変数, 従属変数	心理学的な研究を行う上で最も基本となるのは、問いを立てて仮説を考えることです。「桶屋の清兵衛」というストーリーを通して、仮説の立て方、独立変数・従属変数の設定、仮説の検証について学び、それぞれについて説明できるようになりましょう。
2	心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント② (教科書2) Ⅲ章11)	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 キーワード：構成概念, 質問紙, 構成概念の具体化, 評定尺度法	心理学では身長や体重のように実体があるものだけでなく、雰囲気のように目に見えないもの(物理的には測定できないもの)を測定することがあります。このような構成概念を測定する際のプロセスについて学び、説明できるようになりましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	検査法 週刊誌やテレビの“心理検査”は科学的か (教科書1) 第12章)	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と専門家が利用する検査法の比較から、専門家の利用する心理検査の背景にある理論を理解する。 キーワード：ロールシャッハテスト、臨床心理学、投影法、妥当性	週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査と、専門家が利用する心理検査の比較から、科学と疑似科学の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。検査法における理論的背景を理解しておくこと、次回以降で学習する妥当性や信頼性についての理解が容易になるでしょう。
4	妥当性の検証と信頼性の評価 (教科書1) 第12章)	検査の妥当性を検討する過程を理解し、妥当性と信頼性の違いについて学ぶ。 キーワード：仮説検証、妥当性検証、収束的証拠、弁別的証拠、信頼性	検査の妥当性や信頼性を満たす条件について整理しながらそれぞれの特徴についてまとめると理解しやすいでしょう。週刊誌やテレビで取り上げられる心理検査は妥当性や信頼性を満たしているかについて考えてみましょう。
5	検査得点の解釈と標準化 (教科書1) 第12章)	検査を実施・解釈するにあたって、検査得点(素点)の標準化と検査手続きの明確化について学ぶ。 キーワード：規準、規準集団、パーセンタイル順位、標準得点、検査の標準化	心理検査によって得られた素点を解釈するには、あらかじめたくさんの人に心理検査を実施して得たデータを利用して、解釈のための基準を作成する必要があります。この点について理解できると、専門家が利用する心理検査とそうでない心理検査の弁別がより容易になるでしょう。
6	心理検査法に関する研究 (教科書1) 第12章)	心理検査に関連した研究を学ぶことで、近年の心理検査をめぐる発展について理解する。 キーワード：紙筆式検査、個別式の検査、テスト理論、関連の希薄化、項目反応理論、項目特性曲線	近年、心理検査に関連する研究領域では、紙筆式の検査だけでなくコンピュータや項目反応理論を利用した検査法の開発が進められています。このような発展は検査者・被検査者にとってどのような利点があるかについて自分なりに考えてみましょう。
7	結果の解釈一般化をめぐる問題② (教科書1) 第15章)	心理学の実験によって得た結果を一般化する際に問題となる事象を通して、実験的研究の限界と実験結果の妥当な解釈について学ぶ。 キーワード：母集団、標本、無作為抽出、剰余変数	実験的研究では、母集団(第16章参照)の性質を実験結果(標本)によって推定する際に、しばしば問題が生じます。多くの実験では大学生を対象としていますが、その実験結果を人類全体に適用することはできるのでしょうか。教科書を熟読し自分なりに考えてみましょう。
8	統計的分析① 記述統計 (教科書1) 第16章)	得られたデータの特徴を図表や、数値を用いた的確・効率的に把握するための方法を学ぶ。 キーワード：平均値、標準偏差、相関係数、外れ値	ここでは、実験によって得られた加工前のデータから、そのデータの特徴や傾向を見出すための基本的な分析方法を学びます。平均や標準偏差など基本的な概念について自分なりに整理し、説明できるようになりましょう。
9	統計的分析② 推測統計と統計的検定 (教科書1) 第16章)	得られたデータに対して統計的分析を行うことの意味と実際に行う際の留意点について学ぶ。 キーワード：推測統計、統計的検定、有意水準	実験条件間の平均値などについて、見た人の主観的な判断によって「差がある・差がない」などと解釈が異なることはなぜ問題なのかを考えてみましょう。また、このような問題を防ぐために使用される、統計的検定の基本的な考え方について理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	課題1は、スクーリング初日開始時間に提出してください。課題2は、スクーリング受講中、または指定された期日までに提出してください。 課題1 『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み原則的な研究の流れについて要約レポートを作成しなさい。その際、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いること。 課題2 当日わたされたデータを講義内容をふまえ統計的手法を用いて分析し、その結果をわかりやすく整理した後、仮説が支持されたか否か検討しなさい。
2 単位め	原則としてスクーリング受講後に提出すること パーソナリティ検査における質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べ、代表的な検査をそれぞれ1つずつ解説しなさい。

■アドバイス

1単位め 課題1 アドバイス

この課題は、スクーリング初日開始時間に提出してください（事前郵送は不可。必ず当日持参）。

要約レポートの作成要領は下記のとおりです。

- 1) A4判用紙（または原稿用紙）使用1,000字以上 ワープロ・パソコン可（手書きも可）。1行めに学籍番号・氏名を記載。返却はいたしませんので、コピーを手元に残しておいてください。
- 2) 要約は、文中太字の語句を中心にまとめてください。また、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いてください。書式は自由（箇条書きや図解の使用も自由）です。
- 3) この要約レポートはスクーリングの講義内容の理解を深めるための予習にあたるものですので、自分なりの理解でまとめてください。

1単位め 課題2 アドバイス

この課題は、スクーリング受講中、または指定された期日までに提出してください。提出用紙はスクーリング実施中に配布します。

レポート課題では、具体的な研究例のデータに対して、

- ・その研究の仮説を確認する
- ・仮説の検討に用いる分析手法を選択する
- ・SPSSを用いて実際に分析する
- ・SPSSの分析結果を読み取り、どういった結果が得られたかを文章と表でわかりやすくまとめる
- ・仮説が支持されたか否か結論をくだす

という作業を一人で行い、レポートにまとめていただきます。

多くの受講生にとっては、何のために統計処理をするのか、また、その結果は何を意味しているかということについては、ほとんど知識がなく戸惑うことが多いのではないかと予想されます。その点についても、スクーリング中に説明しますので、講義をきちんと聴くということと、ある程度予習をして「統計学」ということについても基礎的な学習をしていくことを期待しています（前述の「事前学習」参照）。

2単位め
アドバイス

パーソナリティ検査（性格検査）は、検査の仕方によって「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などに分類されます。この課題は、まず、それぞれの方法について、その考え方、長所と短所などを解説することが求められています。そして、それぞれの方法を使った代表的な検査を各1つ（合計3つ）選んで、その検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などについて説明するというのが、課題の後半部分です。

なお、この課題は、

- (1) 質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分
- (2) それぞれの代表的な検査の各1つについて、検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などを解説する部分

で構成する必要があります。

2単位めの課題では、レポート用紙のp. 9～16まで使用し、4,000字程度まででまとめていただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

(1)の「質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分」がこの課題の中心となりますので、(2)については簡略にまとめてください。

このレポート課題は、スクーリングの講義内容および適当な参考書を見つければ書ける内容になっています。参考書入手が困難な受講生は、スクーリングの際に図書館を利用して、レポートの材料を集めておいた方がいいでしょう。なお、参考文献を明記することを忘れないでください。

原則としてスクーリングを受講してから、「2単位めのレポート課題」に取り組むことを推奨します。

2単位めのレポートは、通常のレポート用紙に記入して、提出してください。

■参考図書

●心理検査に関するもの

- 松原達哉編著『心理テスト法入門 [第4版]』日本文化科学社、2002年
 大村政男・花沢成一・佐藤誠著『心理検査の理論と実際 (第4版)』駿河台出版社、1998年
 塩見邦雄編著『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
 願興寺礼子・吉住隆弘編『心理検査の実施の初歩』ナカニシヤ出版、2011年
 水田善次郎著『心理検査の実際』ナカニシヤ出版、2001年
 渡部洋編著『心理検査法入門』福村出版、1993年
 村上宣寛著『心理テストはウソでした』講談社+α文庫、2008年

●心理統計に関するもの

- 吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年
 岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
 大村平著『改訂版 統計のはなし』日科技連、2002年
 松田文子ほか著『わかって楽しい心理統計法入門Ver. 2』北大路書房、2012年
 丸山欣哉ほか著『学生のための心理統計法要点』おうふう、2009年
 村井潤一郎・柏木恵子著『ウォームアップ心理統計』東京大学出版会、2008年

山内光哉著『心理・教育のための統計法<第3版>』サイエンス社, 2010年
山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房, 2004年
南風原朝和著『心理統計学の基礎』有斐閣, 2002年
南風原朝和ほか著『心理統計学ワークブック』有斐閣, 2009年
田中敏著『実践心理データ解析 (改訂版)』新曜社, 2006年
森 敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房, 1990年

■科目の評価基準

スクーリング受講中または受講後に提出する1単位め・課題2がスクーリング試験となる。もちろん2単位めのレポートも合格が必要である。

■スクーリング受講上の注意

3月のスクーリングを受講して3月末に卒業することは原則としてできません。万一、希望する場合は1月10日ごろまでに書面で希望届の提出が必要で、1・2単位めレポートもスクーリング受講後すぐの提出が必要です(2単位めはスクーリング前に提出しても可)。